

令和6年度 長崎市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和7年5月

長崎市（長崎県）

○計画期間：令和2年4月～令和8年3月（6年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和6年度終了時点（令和7年3月31日時点）の中心市街地の概況

令和2年4月以降、認定基本計画に基づき、「長崎のエンジンである中心市街地を起点とした、人に選ばれるまちづくり」の方針のもとに全87事業を実施している。

長崎市の総人口が減少し続けている中、中心市街地の人口はゆるやかに増加し、中心市街地の標準値の地価も増加するなど、長崎市の中心部としての魅力は一定維持されているものと考えられる。

令和6年10月には賑わいを創出する新たな拠点である長崎スタジアムシティが開業し、同年12月には伝統的建造物を改修したホテルインディゴ長崎グラバーストリートが開業した。

観光分野においては、長崎ランタンフェスティバルの集客が昨年度より69万人減の約52万人であったものの、クルーズ客船の寄港数も昨年度から51%増加し、中心市街地の年間延べ宿泊客数についても昨年度から約2万5千人増加した。

一方で、令和6年9月に計測した歩行者通行量は、昨年度と比べほぼ横ばいであり、コロナ禍による歩行者通行量の落ち込みから回復していない状況である。

しかしながら、令和7年度には、つきまち長崎横丁の開業をはじめ、ながさきピース文化祭、Bリーグオールスターゲームなどの各種イベントの開催や、旧長崎英国領事館の開業なども予定されており、交流人口の拡大や地域経済の活性化が期待される。今後も認定基本計画の各事業を着実に進捗させるとともに、令和6年度に完成した長崎スタジアムシティ等の集客拠点とまちなかとの回遊性を向上させるソフト事業の取組みを産官学が連携し、本格的に実施していくことで、中心市街地の活性化を図っていく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（1）居住人口（住民基本台帳に基づく人口）（基準日：毎年度12月31日 単位：人）

（中心市街地 区域）	令和元年度 （計画前年度）	令和2年度 （1年目）	令和3年度 （2年目）	令和4年度 （3年目）	令和5年度 （4年目）	令和6年度 （5年目）	令和7年度 （6年目）
人口	30,766	30,698	30,547	30,748	30,838	31,203	
人口増減数	▲77	▲68	▲151	201	90	365	
自然増減数							
社会増減数							
転入者数							

※システムの都合上、町ごとに「自然増減数」、「社会増減数」、「転入者数」を推計することが困難

(2) 地価（地価公示 国土交通省）

（基準日：毎年度 1 月 1 日 単位：円/㎡）

（中心市街地 区域）	令和元年度 （計画前年度）	令和 2 年度 （1 年目）	令和 3 年度 （2 年目）	令和 4 年度 （3 年目）	令和 5 年度 （4 年目）	令和 6 年度 （5 年目）	令和 7 年度 （6 年目）
中心市街地内 標準値平均	456,444	458,444	471,000	485,778	499,889	512,667	
油屋町 55-1	418,000	411,000	409,000	422,000	437,000	452,000	
五島町 1-16	665,000	685,000	746,000	786,000	813,000	836,000	
浜町 3-32	944,000	944,000	944,000	963,000	977,000	985,000	
大浦町 14-5	222,000	220,000	219,000	221,000	229,000	239,000	
新大工町 179	317,000	321,000	334,000	348,000	361,000	371,000	
船大工町 76	226,000	218,000	212,000	210,000	211,000	213,000	
宝町 79	373,000	380,000	401,000	423,000	446,000	472,000	
万屋町 77	485,000	486,000	494,000	504,000	515,000	526,000	
五島町 6-15	458,000	461,000	480,000	495,000	510,000	520,000	

※長崎県内の標準値のうち、R 2. 1. 1 時点で中心市街地にあるものを抜粋

2. 令和6年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和6年度は第2期基本計画の5年度目にあたり、全87事業が着手され、各事業は概ね順調に進捗しているものと思われる。

目標指標の一つである「中心市街地の新規雇用者数」については、企業立地推進事業の順調な進捗や交流拠点施設整備事業および新大工町地区市街地再開発事業の完成に伴い、順調に増加している。

「中心市街地の年間延べ宿泊客数」については、目標値には及ばないものの、昨年度から約2万5千人増加するとともに、クルーズ客船の寄港数が昨年度から51%増加し、全国で3番目に多い寄港数を記録するなど、復調傾向にある。また、令和6年10月には長崎スタジアムシティホテル（243室）が開業し、同年12月にはホテルインディゴ長崎グラバーストリート（66室）が開業した。今後も次々と計画区域内に新規開業が予定されており、本事業の成果として捉えるべきである。しかしながら、人手不足も相まって、宿泊稼働率の低下も懸念されるので、実態把握をお願いしたい。

「1日あたりの歩行者通行量」については、商店街内の核店舗の移転や閉店による影響が見られ、全地点で基準年度の値を下回る結果であった。

今後、長崎駅周辺や長崎スタジアムシティ等の集客拠点とまちなかエリアとの回遊性向上を目的としたソフト施策について、産官学が連携して実施することで、まちなかエリアの賑わい創出につなげていく必要がある。また、まちなかエリアの歩行者通行量が減少している要因として、県庁舎跡地周辺のオフィスの移転も考えられるため、その状況や移転先について、実態把握をお願いしたい。

今後、中心市街地の人流データも注視しながら、進捗管理を行ない、引き続き、中心部商店街や既存の商業者と大型施設が共生して、中心市街地の一体的な活性化が図られるよう事業を進めていただきたい。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※1	目標達成に関する見通し※2	
						前回の見通し	今回の見通し
雇用の場の創出	中心市街地の新規雇用者数	893 人 (H26～30 年度)	1,500 人 (R2～7年度)	1,241 人 (R2～6年度)	※3 B	A	A
交流の産業化による消費の拡大	中心市街地の年間延べ宿泊客数	1,699,434 人 (H30 年)	1,997,000 人 (R7年)	1,754,606 人 (R6年)	B	A	A
市民生活の利便性向上	1日当たりの歩行者通行量 (9地点の合計)	平日 61,997 人 休日 60,896 人 (R 元年度)	平日 65,300 人 休日 64,000 人 (R7年度)	平日 44,183 人 休日 45,794 人 (R6年度)	C	C	C

＜基準値からの改善状況（※1）＞

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

（※3）R2～7年度の累計を目標値と設定しているため

（表中の基準値「893 人」はH26～30 年度の累計値）

＜目標達成に関する見通しの分類（※2）＞

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A：目標達成が見込まれる

B：目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C：目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「＜基準値からの改善状況（※1）＞」、「＜目標達成に関する見通しの分類（※2）＞」ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。（例：a、b、c）

2. 目標達成見通しの理由

「中心市街地の新規雇用者数」については、企業立地推進事業の順調な進捗や交流拠点施設整備事業及び新大工町地区市街地再開発事業の完成に伴い、新規雇用者数が順調に増加している。今後も、企業からの問い合わせや立地申込書の提出状況から、企業立地推進事業が順調に進捗することが想定されるため、目標達成が見込まれる。

「中心市街地の年間延べ宿泊客数」については、令和6年度に主要事業の文化財保存整備事業としてホテルインディゴ長崎グラバーストリートが開業し宿泊客数に関連する全ての主要事業が完了した。目標値には至らなかったが、基準値は上回った。今後も、工事で休止を行っていたホテルや、年度途中に開業した長崎スタジアムシティ及び文化財保存整備事業によるホテルの宿泊客数が1年間分加算されることから、目標達成は可能と見込まれる。

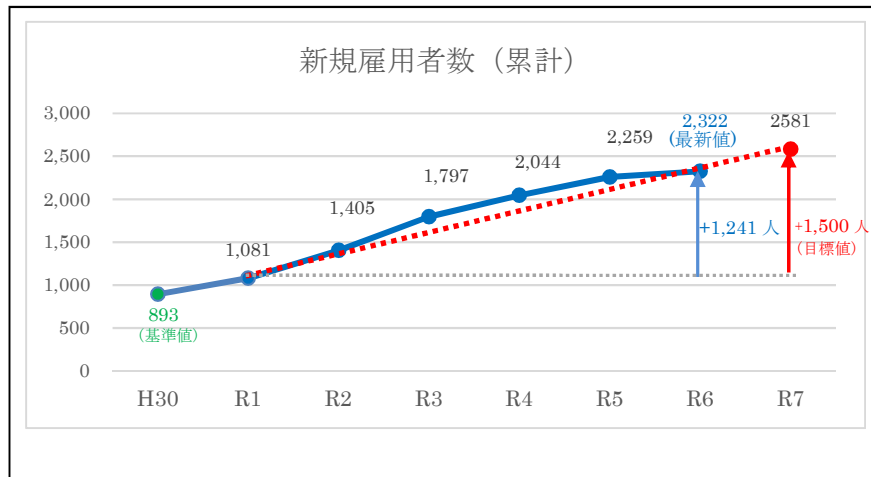
「1日当たりの歩行者通行量（9地点の合計）」については、長崎駅周辺土地区画整理事業を除く主要事業が完成し、各種イベントも開催されたものの、コロナ禍による落ち込みからの回復は見られず、休日においては基準値より約25%減少し、平日においては基準値より約29%も減少する結果となったことから目標達成は見込めない。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「中心市街地の新規雇用者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 53～P. 54 参照

●調査結果と分析



年	(単位：人)
H 26 ～30	893 (基準年値)
R 1	1,081
R 2	1,405
R 3	1,797
R 4	2,044
R 5	2,259
R 6	2,322
R 7	2,581
	(R 2～7 累計 1,500) (目標値)

※調査方法： ヒアリング調査

※調査月： 毎年4月

※調査主体： 長崎市

※調査対象： 平成26年以降に中心市街地で創業開始した企業

〈分析内容〉

主要事業において、新大工町地区市街地再開発事業及び交流拠点施設整備事業が完成し、企業立地推進事業による中心市街地への新規の企業誘致が着実に進んでいる。既存の立地企業における新規雇用者数が鈍化してはいるが、新規雇用者は、令和6年度で63人増加し、最新値で累計1,241人となっており、概ね期待された効果が発現している。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 企業立地推進事業（長崎市）

事業実施期間	昭和58年度～【実施中】
事業概要	企業立地奨励制度に基づき、事業所の設置・賃借（施設等整備奨励金・建物等賃借奨励金）や新規雇用（雇用奨励金）に係る必要な奨励措置を講ずることにより、産業の振興及び雇用機会の拡大を図り、もって本市経済の発展及び市民生活の向上に資する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】1,110人（6カ年累計） 【最新値】977人※（5カ年累計） 当該事業による新規企業の誘致実績として、令和6年度においては、長崎市内に新たに5つの企業を誘致し、全て中心市街地区域内に立地した。

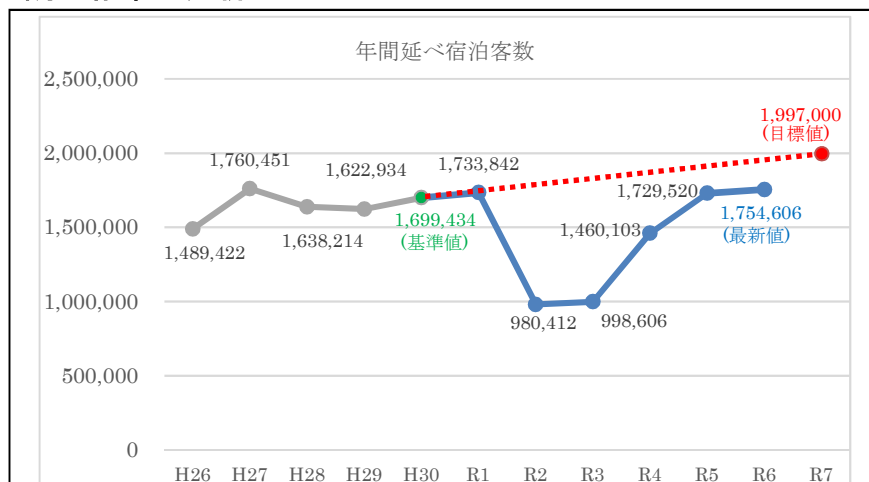
	なお、令和6年度の新規雇用者数は63人となっている。 (公財)長崎県産業振興財団及び県と連携し、地震が少なく人材が確保しやすいという利点や企業立地奨励制度を積極的に活かした企業誘致活動を行ったことが要因であると考えられる。 ※②新大工町市街地再開発事業の区域内に企業立地奨励制度を活用して立地した企業の雇用者数は①に含めず②に含める。
事業の今後について	企業誘致については、概ね順調に進捗しており、引き続き、(公財)長崎県産業振興財団及び県と連携し、地震が少なく人材が確保しやすいという利点を活かした誘致活動を展開しつつ、企業立地奨励制度に基づく支援を行うとともに、採用支援など企業立地後のアフターフォローを充実させるなどの取組みを進める。
②. 新大工町地区市街地再開発事業（新大工町地区市街地再開発組合）	
事業実施期間	平成25年度～令和5年度【済】
事業概要	中心市街地の商業地である新大工町地区において商業施設の再整備と併せて、住宅、業務施設、駐車場施設等を一体的に整備することにより、地域活力の維持向上と賑わい再生を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】300人（6カ年累計） 【最新値】79人（5カ年累計） 当該事業は、南北の街区に分けて実施され、概ね当初の計画どおりに進捗し、令和2年12月に南街区の業務施設を含むJプロ新大工ビルが開業し、令和4年11月には北街区の商業施設を含む新大工町ファンスクエアが開業した。令和5年度には、当該事業に係る市街地再開発組合の解散及び清算業務までのすべての業務が完了した。 当該事業による新規雇用者数は、最新値で79人となっており、目標値に届いていない。これは、主に南街区の業務施設に入居した企業の新規雇用が進まなかったことが要因と考えられる。
事業の今後について	引き続き雇用者の増加につながる支援を行っていくことで、新規雇用者数の増加を図る。
③. 交流拠点施設整備事業（長崎市）	
事業実施期間	平成27年度～令和3年度【済】
事業概要	新長崎駅西側の隣接地において、会議や地域住民が交流できるイベントなどを開催できる交流拠点施設を建設し、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図る。
国の支援措置名	① 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（長崎駅周

及び支援期間	辺地区)) (国土交通省) (令和2年度～令和3年度) ② 中心市街地再活性化特別対策事業 (総務省) (令和2年度～令和3年度) ③ 都市構造再編集集中支援事業 (国土交通省) (令和2年度～令和3年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】100人 (6カ年累計) 【最新値】185人 (5カ年累計) 当該事業は当初計画通りに進捗し、令和3年8月に交流拠点施設が完成し、同11月から併設するホテルとともに開業した。 当該事業による新規雇用者数は、最新値で185人となっており、目標値を上回っている。
事業の今後について	今後も、交流拠点施設の年間目標値 (催事開催件数775件、利用者数61万人) を達成していくとともに、会議やイベントなどの更なる誘致・受入を進め、新規雇用の拡大につなげていく

●目標達成の見通し及び今後の対策
 主要事業は概ね順調に進捗しており、企業立地推進事業においても、例年多くの企業からの問い合わせを受け、すでに令和7年度の立地申込書の提出を受けていることから、目標達成は可能と見込まれる。
 今後も主要事業のみならず、若年者雇用促進事業などその他の各事業の進捗も図り、目標達成に向けた取組みを継続する。

(2)「中心市街地の年間延べ宿泊客数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 55～P. 56 参照

●調査結果と分析



年	(単位：人)
H30	1,699,434 (基準年値)
R1	1,733,842
R2	980,412
R3	998,606
R4	1,460,103
R5	1,729,520
R6	1,754,606
R7	1,997,000 (目標値)

※調査方法：ヒアリング調査

※調査月：毎年1月～

※調査主体：長崎県・長崎市

※調査対象：中心市街地内の全宿泊施設

〈分析内容〉

宿泊客数の増加に向けた主要事業については、令和6年12月に完了した。

宿泊客数は目標値には及ばないものの、昨年より約2万5千人の増加となった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 交流拠点施設整備事業（長崎市）

事業実施期間	平成27年度～令和3年度【済】
事業概要	新長崎駅西側の隣接地において、会議や地域住民が交流できるイベントなどを開催できる交流拠点施設を建設し、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	① 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（長崎駅周辺地区））（国土交通省）（令和2年度～令和3年度） ② 中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（令和2年度～令和3年度） ③ 都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】99,000人／年 【最新値】71,000人／年 当該事業は当初計画どおりに進捗し、令和3年8月に交流拠点施設が完成し、同11月から併設するホテルとともに開業した。 当該事業による令和6年の宿泊客数（推計）は、最新値で71,000人／年となっており、本事業における宿泊客数は目標値に届かなかった。

	交流拠点施設における令和5年度の利用者数は508,597人となっており、昨年度と比較して、一般会議等の件数は増加したが、宿泊客数の増加につながる学会・大会等の件数が減少した。
事業の今後について	今後も、交流拠点施設の年間目標値（催事開催件数775件、利用者数61万人）を目指していくとともに、宿泊客数の増加につながる学会・大会等の更なる誘致・受入を進めていく。

②. 文化財保存整備事業（長崎市）

事業実施期間	平成25年度～【実施中】
事業概要	国、長崎県及び長崎市の指定文化財などの所有者が実施する保存整備事業に対し、事業費の一部を補助することで、文化財を良好な状態で後世に継承しながら中心市街地の魅力向上に寄与する。
国の支援措置名及び支援期間	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（文部科学省）（令和3年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】30,000人／年 【最新値】－人（非公表） ※年間延べ宿泊客数の実績には含まれています。 南山手地区の伝統的建造物である明治期の洋館「マリア園」を保存修理し、レトロな外観を保ったホテルとして利活用するため、令和3年度に着工し、令和6年12月に開業した。
事業の今後について	今後も引き続き、継続して事業を行い、中心市街地の魅力向上を図っていく予定である。

●目標達成の見通し及び今後の対策

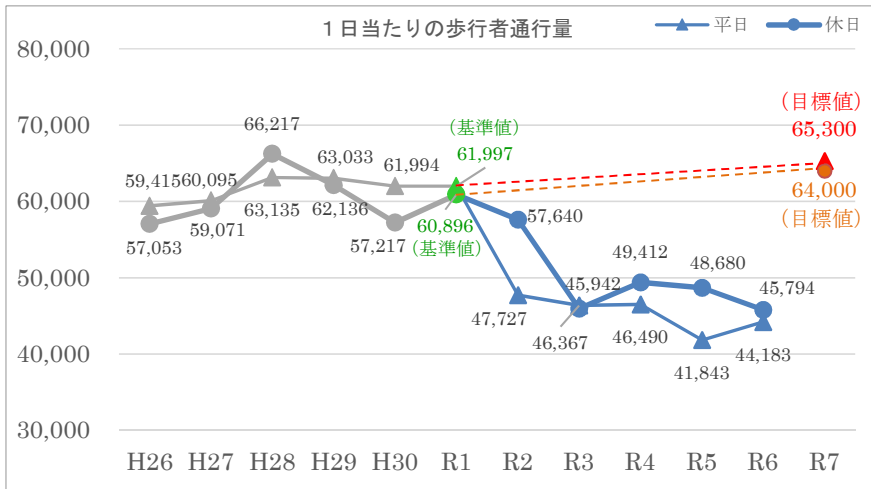
宿泊客数の増加に寄与する主要事業については、交流拠点施設整備事業が完了し、文化財保存整備事業についてもホテルインディゴ長崎グラバーストリートが開業し、年間延べ宿泊客数は、目標値には及ばないものの、基準値を約5万5千人上回った。

長崎スタジアムシティの開業が昨年10月、ホテルインディゴ長崎グラバーストリートの開業が昨年12月と年度途中であることや、工事で休止を行っていたホテルが再開したこと等から、これらのホテルの宿泊客数が1年間分加算されるため、目標達成は可能と見込まれる。

(3) 「1日当たりの歩行者通行量（9地点の合計）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 56～P. 59 参照

●調査結果と分析



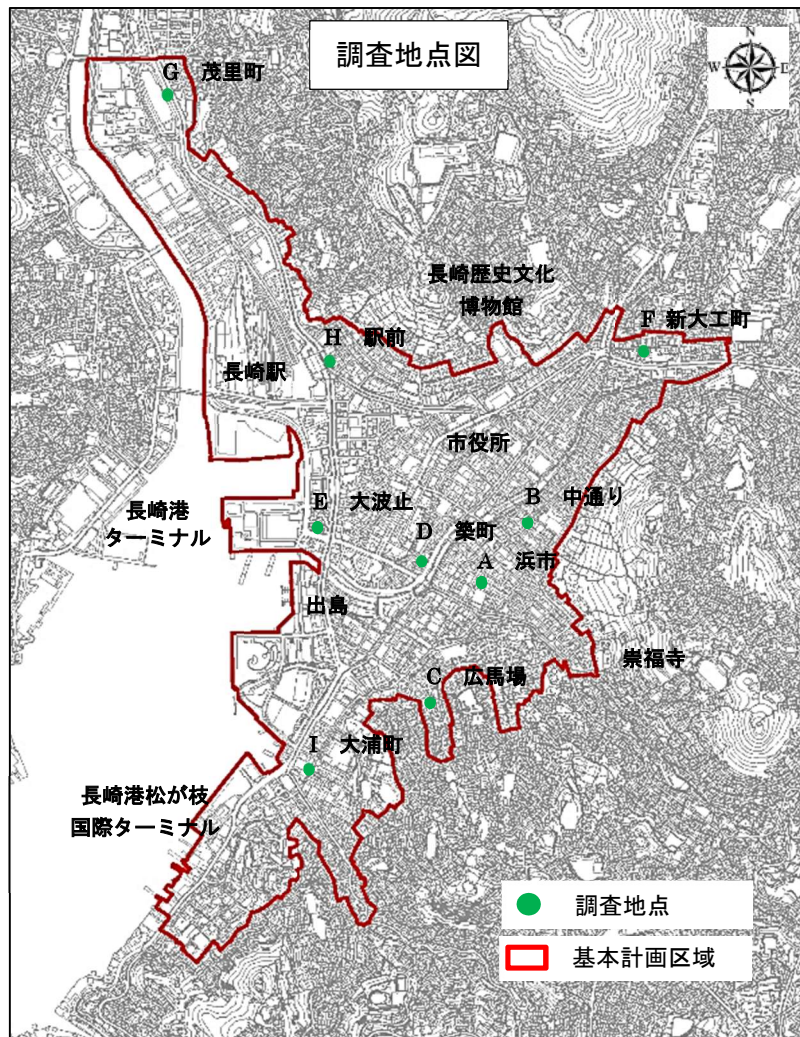
年	(単位：人)
R 1	平日：61,997 休日：60,896 (基準値)
R 2	平日：47,727 休日：57,640
R 3	平日：46,367 休日：45,942
R 4	平日：46,490 休日：49,412
R 5	平日：41,843 休日：48,680
R 6	平日：44,183 休日：45,794
R 7	平日：65,300 休日：64,000 (目標値)

※調査方法：休日と平日の2日間、10～18時に計測

※調査月：毎年9月（令和3年度は10月に実施）

※調査主体：長崎商工会議所

※調査対象：中心市街地9地点（浜町商店街、中通り商店街ほか）



(上段：平日、下段：休日) (単位：人)							
	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
地点 A (浜市商店街)	19,916 21,321	13,817 20,005	12,976 15,741	13,507 17,308	14,221 17,124	13,481 15,987	
地点 B (中通り商店街)	5,033 4,432	4,363 4,848	4,440 4,122	3,854 3,543	3,219 3,634	3,916 3,818	
地点 C (広馬場商店街)	1,255 1,043	855 1,157	937 683	1,003 848	844 708	763 470	
地点 D (築町商店街)	10,189 7,915	8,204 7,743	8,249 6,049	8,472 6,564	6,389 6,250	7,728 5,938	
地点 E (大波止)	6,269 8,557	4,389 7,920	4,651 6,091	4,506 6,480	3,863 5,895	4,262 4,566	
地点 F (新大工町商店街)	7,326 3,146	7,341 3,564	6,233 3,079	5,846 2,861	5,102 2,985	5,028 2,873	
地点 G (茂里町)	8,029 11,046	6,432 8,985	6,138 7,708	6,125 8,994	5,454 9,454	5,850 9,184	
地点 H (長崎駅前商店街)	2,244 1,928	1,399 1,646	1,768 1,333	1,942 1,537	1,929 1,599	2,085 1,754	
地点 I (大浦町)	1,736 1,517	927 1,772	975 1,136	1,235 1,277	822 1,031	1,070 1,204	

〈分析内容〉

歩行者通行量は、全地点で最新値が基準年度の値を下回り、基準年度の歩行者通行量合計値と比較して、平日では3割程度減少し、休日では2割程度減少している。また、前年度の値と比較して、平日では6地点で増加したものの、休日では6地点で減少し、コロナ禍による落ち込みからの回復が見られなかった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 新大工町地区市街地再開発事業（新大工町地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成25年度～令和5年度【済】
事業概要	中心市街地の商業地である新大工町地区において商業施設の再整備と併せて、住宅、業務施設、駐車場施設等を一体的に整備することにより、地域活力の維持向上と賑わい再生を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】平日7,839人／日、休日3,398人／日 【最新値】平日5,028人／日、休日2,873人／日（地点F） 当該事業は、南北の街区に分けて実施され、概ね当初の計画どお

	りに進捗し、令和2年12月に南街区の業務施設を含むJプロ新大工ビルが開業し、令和4年11月には北街区の商業施設を含む新大工町ファンスクエアが開業した。令和5年度には、当該事業に係る市街地再開発組合の解散及び清算業務までのすべての業務が完了した。 当該事業による影響が波及すると想定される調査地点F（新大工町商店街）の歩行者通行量は、最新値で平日5,028人／日、休日2,873人／日となっており、目標値を下回っている。これは、新大工町地区市街地再開発事業が完了したものの、当該事業区域が含まれる商店街の歩行者通行量の増加につながるようなソフト的な取組み等が不足していることが要因と考えられる。
事業の今後について	市街地再開発事業の整備が完了したため、今後も継続して、当該事業で整備した広場等を活用しながら当該事業区域が含まれる商店街と連携したイベント等を行い、更なる賑わいの創出を図る取組みを進める。

②. 新市庁舎建設事業（長崎市）

事業実施期間	平成28年度～令和4年度【済】
事業概要	防災・災害復興拠点機能や多目的利用が可能な空間を有する新市庁舎を中心市街地に建設し、市民によるイベント・展示やエントランスホール、広場などを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和2年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】平日5,233人／日、休日4,532人／日 【最新値】平日3,916人／日、休日3,818人／日（地点B） 当該事業は、当初の計画通りに進捗し、令和5年1月に新市庁舎が開庁し、庁舎前広場などを建物周辺の外構工事が3月に完了した。 新市庁舎の立地による影響が波及すると想定される調査地点B（中通り商店街）の歩行者通行量は、最新値で平日3,916人／日、休日3,818人／日となっており、目標値を下回っている。これは、新市庁舎の周辺道路が整備中であることや、新市庁舎からまちなかへ誘導するソフト的な取組み等が不足していることが要因と考えられる。
事業の今後について	新市庁舎周辺道路の完成に向けて整備を進めていくとともに、今後も継続して新市庁舎の展望フロア等でのまちなかエリアのイベントや魅力の発信をすることで、市庁舎を訪れた市民や観光客をまちなかへ誘導していくようなソフト的な取組み等を進める。

③. 長崎駅周辺土地地区画整理事業（長崎市）

事業実施期間	平成 21 年度～令和 10 年度【実施中】
事業概要	国際観光都市長崎の玄関口にふさわしい都市拠点を形成し、快適な回遊拠点、交通環境の改善などを目的として、新幹線などの鉄道施設の受け皿及び道路や広場などの都市基盤施設の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業（区画））（国土交通省）（令和 2 年度） 社会資本整備総合交付金（道路事業）（国土交通省）（令和 3 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値※】 平日 2,805 人／日、休日 3,008 人／日 【最新値※】 平日 2,085 人／日、休日 1,754 人／日（地点 H） 当該事業は、平成 23 年度に策定した「長崎駅周辺まちづくり基本計画」に基づき事業を進めており、令和 3 年 4 月に在来線駅舎のある西口駅前広場が供用開始し、令和 4 年 9 月の西九州新幹線の開業にあわせ東口交通広場を暫定的に供用するなど、着実に進捗している。 当該事業による影響が波及すると想定される地点 H（長崎駅前商店街）の歩行者通行量は、最新値で平日 2,085 人／日、休日 1,754 人／日となっており、目標値を下回っている。これは、当該事業が完了していないことや、回遊性の向上を図るためのソフト的取組み等が不足していることが要因と考えられる。 ※長崎駅周辺土地地区画整理事業と交流拠点施設整備事業による歩行者通行量の増加を合算した数値
事業の今後について	令和 8 年度の長崎駅周辺の都市基盤施設の完成に向け整備を継続していくとともに、今後も回遊性の向上を図るための取組みを産官学連携しながら行っていく。

④. 交流拠点施設整備事業（長崎市）

事業実施期間	平成 27 年度～令和 3 年度【済】
事業概要	新長崎駅西側の隣接地において、会議や地域住民が交流できるイベントなどを開催できる交流拠点施設を建設し、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	① 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（長崎駅周辺地区））（国土交通省）（令和 2 年度～令和 3 年度） ② 中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（令和 2 年度～令和 3 年度） ③ 都市構造再編集集中支援事業（国土交通省）（令和 2 年度～令和 3 年度）
事業目標値・最新値	【目標値※】 平日 2,805 人／日、休日 3,008 人／日

値及び進捗状況	【最新値※】 平日 2,085 人／日、休日 1,754 人／日（地点H） 当該事業は、当初計画通りに進捗し、令和3年8月に交流拠点施設が完成し、同11月から併設するホテルとともに開業した。 当該施設の立地による影響が波及すると想定される調査地点H（長崎駅前商店街）の歩行者通行量は、最新値で平日 2,085 人／日、休日 1,754 人／日となっており、目標値を下回っている。これは、当該施設から中心市街地への回遊性を向上させるためのソフト的取組み等が不足していることが要因と考えられる。 ※長崎駅周辺土地区画整理事業と交流拠点施設整備事業による歩行者通行量の増加を合算した数値
事業の今後について	今後も、交流拠点施設の年間目標値（催事開催件数 775 件、利用者数 61 万人）を達成していくとともに、歩行者通行量の増加につながる学会・大会等の更なる誘致・受入を進めていく。また、今後も継続して当該施設を訪れた人を中心市街地に回遊させるためのソフト的取組み等を産官学連携しながら行っていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

長崎駅周辺土地区画整理事業を除く主要事業が完成し、各種イベントも開催されたものの、コロナ禍による歩行者通行量の落ち込みからの回復は見られなかったことから、目標達成は難しいと考えられる。しかしながら、令和7年度には、つきまち長崎横丁の開業、ながさきピース文化祭やBリーグオールスターゲームの開催、クルーズ客船の寄港数増加などにより、交流人口の拡大が期待される。また、昨年度から試行的に取り組んでいる長崎スタジアムシティ等の集客拠点とまちなかとの回遊性向上を目的としたソフト施策についても、産官学が連携し、本格的に実施していくことで、賑わいを創出し、歩行者通行量の増加を目指す。